

クラウド型管理プラットフォームで 無線LAN環境の運用管理が容易に

業務内容

情報サービス

課題

- ・ オフィスの移転が決まり短期間で無線LAN環境を見直す必要があった
- ・ コロナ禍でWeb会議が増えて通信の速度が十分に出ない問題が生じた
- ・ オンプレミス型の無線LANコントローラの運用管理が手間になっていた

導入製品

- ・ AP305C-WR
- ・ ExtremeCloud™ IQ

成果

- ・ 新オフィス移行後のWi-Fi環境ではトラブルはほとんどなく安定運用を実現
- ・ 管理プラットフォームのクラウド化により、ネットワーク運用管理工数が大幅に削減されると期待

わずか1カ月でオフィス移転に伴う無線LAN環境を刷新 利便性の高いクラウド型管理プラットフォームで運用管理の効率化に期待

ネットオークションやショッピングの比較・検索サイト「オークファン」を運営する株式会社オークファン（以下、オークファン）は、コロナ禍での働き方の変化に伴うオフィス移転に併せて、Extreme Networksの無線アクセスポイント（AP）「AP305C-WR」と、クラウド型管理プラットフォーム「ExtremeCloud™ IQ」を導入し、新しいWi-Fi環境を構築しました。東京エレクトロンデバイス（以下、TED）の支援のもと、短期間での移行と安定稼働を実現しています。

コロナ禍を機にオフィス移転 Wi-Fi利用のニーズ増でリプレースを検討

オークファンは、祖業である「aucfan.com」を起点に、国内最大級のBtoB卸・仕入れプラットフォーム「NETSEA」などを含む多彩なサービスを幅広く展開。直近では中国の巨大卸市場「義烏マーケット」の運営会社と提携して海外展開を強化しています。

同社は、東京・目黒に500坪超のオフィスを構えていましたが、コロナ禍で出勤率が減少。そこで働き方の変化に対応するべく2022年にオフィス移転の検討を始めました。一方オフィス内では、業務でのWeb会議の増加に伴い無線LANの強度問題が表出し、業務に支障が及ぶようになりました。そこでシステム部門では、移転に併せて無線LAN環境の改善を検討する形となりました。

「ビデオ会議でリアルタイム性が求められるようになる中で、社員からは『資料共有ができない』『Wi-Fiが切れる』という声が上がようになりました。管理側の視点でも、オンプレミス型の無線LANコントローラの操作性が悪くトラブル対応がしづらいという問題があったので、サポート終了も迫っていたこともあり、移転を機にWi-Fi周りの環境を刷新することに決めました」と、同社開発部 インフラチーム・タテンボガイドチーム マネージャーの高橋啓輔氏は振り返ります。

タイトな移転スケジュールの中で 製品の選定と導入作業をTEDに依頼

その後2022年12月に具体的な移転方針が決まり、移転プロジェクトが開始されました。会社から短期間での移転という方針が掲げられる中で、ネットワークインフラの移行についても急遽プロジェクトが動き出し、具体的な要件の策定と製品の選定作業が始まりました。そこでの重要な要件は（1）運用負荷が少ないクラウド型か自律型のコントローラ、（2）Wi-Fi 6対応製品、（3）価格、（4）納期の4つでした。

「まず、遠隔から管理をしやすくするためにクラウド型管理プラットフォームの導入を第一に考えました。価格に関しては、オフィス移転自体に費用がかかることからIT関連の費用もなるべく抑える必要がありました。そして最も大事なのが納期です。タイトなスケジュールの中で選定から工事・設定を済ませることが必須条件でした」（高橋氏）

そこで高橋氏は、TEDに製品の提案を依頼しました。既存のネットワーク構築を行ったのは他のベンダーでしたが、今回はAPやコントローラの設定・構築も含めて依頼する必要があったため、「短期間での構築までを考えた際の対応力や技術力、製品選定力を考慮してTEDにお願いすることにしました」と高橋氏は選定理由を語ります。

依頼を受けてTEDは、Extreme Networksを含む2社の無線LAN製品を提案しました。高橋氏は提案を受けた際の印象をこう振り返ります。

「ExtremeCloud IQの画面を見て、とても使いやすそうだと感じました。必要な機能も充実していたので、これならばトラブルシューティングが楽になるだろうという印象でした。当初はそこまでの機能は求めていませんでしたが、画面を見たらいろいろなことができそうだとアイデアも浮かんできました」（高橋氏）

事前に効率的なAP配置を検討 半年の作業を1ヵ月で行い安定稼働を実現

移転にあたっては、オフィス内のレイアウトが決まったのが2023年4月のことです。そこから6月1日の業務開始に合わせて、無線LANの設計から移行作業、機器の導入・設置・テストまで済ませる必要がありました。そこでまず、オフィスのレイアウト図を入手した段階で、必要なAP数の算出と配置場所の策定作業を始めました。その際に役立つのが、ExtremeCloud IQのシミュレーション機能です。

「ExtremeCloud IQには、図面データを読み込んでAPの設置場所をプロットしていくと、図面上に電波強度を含めたヒートマップが表示される機能が備わっています。ベストな設置場所をプロットしてもらい、端末の台数や社員が座る位置を考慮しながら設置場所を決めていきました。オフィス工事に先駆けて作業をしてもらえたので、安心できました」（高橋氏）

最終的に席数が120席、接続端末数が150台の想定でAPを13台配置する設計とし、機器の納品から設定まで1週間というスケジュールの中での突貫作業となりましたが、移転日には問題なくWi-Fi接続し、滞りなく仕事を開始できました。高橋氏は、「通常であれば設計の開始から設置まで半年かかるところを実質1ヵ月で対応してもらえました」とTEDの支援体制を高く評価します。

Extreme Networks製品の性能面に関しては、事前にはっきりと設計できたこともあり、運用を開始してからほとんど障害は発生していません。高橋氏は、「APの性能もよく、ExtremeCloud IQに触らずに済むレベルで安定しています。運用時の負荷が飛躍的に改善されました」と評価します。

ExtremeCloud IQのデータを 業務改善に活用していきたい

今後に関して高橋氏は、Wi-Fi環境面で通信速度のさらなる向上を目指すとともに、運用面でもExtremeCloud IQ活用の高度化を視野に入れているとのこと。「今後大人数でビデオ会議を開くことも増えてくる可能性があるため、通信の高速化を目指していきます。またExtremeCloud IQはエンジニアとして触っていて興味深いツールです。トラブル対応の自動化に加えて表示されるデータをさまざまな方向に活用できないかなども検討していきたいと思います」と構想を語ります。



株式会社オークファン
開発部インフラチーム・タテンポガイドチーム
マネージャー 高橋 啓輔 氏



無線LANの状況がわかりやすいと高橋氏が評価するExtremeCloud IQの管理画面